

二、想念帯を読む師

(ページ『出会い』参照)

高橋先生という方は、心の中にある想念帯という処を観る訳です。

これは、この世的に言えば、自分がこの世で思った事・行った事、毎日の一秒一秒の事が、ここに全部記録されている。一つとして漏らしていない。ですから先生は、「あ、あなたは、昭和〇年〇月〇日の何時頃、こんな事をしましたね」

「えーっ！(笑) いやあ、そんな覚えはありませんが……」

「よーく思い出してご覧なさい」

——出て来るんですね。「何で分かるんですか？」と訊く訳にもいかない。

高橋先生という方は、人の想念帯が全部読める方なんです。過去帳じゃないですけど、全部引つ繰り返して観たら、全部分かるんですね。今現在の事からその人の過去転生の過程まで全部書いてある。先生は書いてあるのを、ただ読むだけ——。

ところが、読むだけではなくて、その人の一秒一秒の体の動きから行っている事

まで姿が全部観えるんですね。私なんかよく言われましたよ、

「あなた、この時、こんな格好をしてたじゃないの」

「えーっ！(笑)」

——こんな事が出来る人は何処にもいないんじゃないでしょうか。

本当にそういう人に会ったら、もう何も言えないですね。私なんか、本当に強烈でしたよ。

これは或る日、先生を訪ねてみえた牧師さんがいらっしやった。事務所の応接室で先生と話を始めました。

私は机に座って仕事をしていたんですが、その会話が聴こえてきたんですね。聴いていると、まあ、牧師が先生を持ち上げるような事ばかり言ってるんですね。また調子のいい事を言ってるんですよ。

そして、その牧師さんが話を終わって帰られた。で、先生が見送りから帰って来て、私の前をスーッと通って行くのかと思ったら……私の机の前でピタッと止まった。「何だろう？」と思つて、顔を見上げたら、

「朽木さんね、今帰ったお客さんの事、何て思ってた？」（笑）

なんて言われて、もうドキッとした訳です。

「いゝえ、私は何も思っておりませんが……」

——聴こえないんですから、「いゝえ」って、言いますよねえ。そうしたら、

「嘘だよねえ、お客さんの事、『なんだ、この野郎』って批判してたでしょうが」（笑）

——まあ、言われて、もうカーッとなって……もう分かっているんですよ。（笑）

その時の私は、「なんだ、この野郎、調子のいい事ばかり言いやがって、牧師だなんて、なくに言ってるんだ」と思ってた訳ですよ。（笑）

世の中には、そういう人もいますよね。——いや、いるから（心の教えを）やるんじゃないですけれどもね。いてもやらない。そして、おかしな事ばかり考えたり、言ったりする訳です。そして、

「あなたは、こんな部屋で反省していますね。下に絨毯の代わりにこんな毛布が敷いてあって、机があって、花が置いてあって、ここに戸棚があって、戸はこんな戸ですね。そしてあなたは、こんな格好で反省をしていますね」

——もう、みんな言われる。（笑）その通りに言われるから、本当ですよね。

物だけじゃなく、心の中を全部言われる。もう吃驚どころじゃないですね。

で、最後に、先生と話してる時に、

「あなたはね、今、私と話をしながら、こんな事、考えながら話してますよね」

——もう、その通りなんです。一体、何処で分かるのかなと思いますよね。

それからは、「これはもう嘘が言えない人がいる」と、そう思いましたねえ。それまでは、ズーツと嘘を言ってたんですねえ（笑）、調子のいい事ばかり言ってね……。

そういう人がいるから、（心の事を）やるのではなくて、人間というものは、正直にならなくてはいけない。

ですから、心をちゃんとしてやれば、何も隠すような事は無くなる訳ですよ。

しかしながら、何かしら私も——私なら私の与えられた範囲だけ——（想念帯に書いてあるものが）段々分かるようになってきたんですね。「あ、これは高橋先生が仰っていたのは本当だ」と思いましたね。

こういう事が分かった時、これは本当に心というものがあるんだなということが、

はっきり分かりましたね。これは不思議でも何でもないんですよ。

本当はあの世というものは、全部分かるようになっていくんですよ。喋らなくても分かるようになっていくんですよ。

一九八三年十一月